六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ケ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣 金二錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八、五八五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯 發印刷人 森合英

入社の辭

高木稻水

今回十九年の教壇生活を去つて本社に入社する事になりました。山形、富山、秋田、岩手と轉々として歩いて來た過去を顧みる時流石に感慨無量のものがあります。

當年とつて四十四歲、支那人は四十にして出て仕ふといつてゐる位で人間の本當に油が乗つて活社會に縦横に活躍出來るのは四十からである。この教員拂底時代にこの若さでしかもそれ程生活に困る程の俸給でもないのに何を好んで教員生活を去つてこんな一地方新聞社に入つたのか。私を知つてゐる多くの人の好んで聞かんとする所であらうと思ふ。

私は昨春病氣をし身体が弱つたので、此際思ひ切つて退職静養の上、再起を期するつもりで退職を申し出で兎に角自分の郷里に歸らう。そして健康回復の上は郷土のために余生を捧げて何かやつて見ようこんな漠然たる考へで盛岡から去る八月家族を連れて歸つて來たのである。所が退職辭令が時節柄のび／＼になつてゐる中に健康も回復し、これならすぐにでも何でもやれると思つてゐる所へ、本社に來いと云ふ話があつたので少しの躊躇もなく私は快諾したのである。隨分物好なとも醉狂とも思ふ方もあるであらうが私には私としての抱負もあるのである。

然らば貧弱な一地方新聞にお前は何の魅力があるのか？率直にいへば、私は活字が好きなのである、物を書くことが好きなのである、東京で教育時論といふ雜誌を編輯したこともあるし、盛岡中學では十二年間雜誌部長をやつてゐたのである。小さからうが何であらうが、この私の慾望を充たしてくれるのがたまらなく嬉しいのである。

先づ第一に本紙に文藝欄を設けて當地方、私の小年時代の夢をはぐんでくれた郷土の文化運動の一部でも擔當して見たいと思つてゐる。第二は長い間他郷を歩いてこの地方の事情に疎いけれども追々勉强して、その發展策といふやうなことも考へて見たいと思つてゐる。

切に各位の御同情と御聲援をお願ひする次第である。

文藝

文藝原稿募集

論文、隨想、短歌、徘句、川柳
但し、文量に制限なし、
原稿は返戻せず

歳寒私箋〔上〕

一文學者としての覺悟

吉川英治

稀々、久しぶりの人に會ふとすぐに云はれる。御健康ですか、實によく書いてゐますね、よくおつゞきですなあところが、ことしほど机を離れてゐた年はないこの歳寒、机を掃ひながら顧みて、机に恥を覺えるほどである。

ことしは、さうして暮さうと意識的にもつとめたことである。近來、ひそかに「離」といふことの必要を考へてゐたからだつた。「離」はわたくしにとつて「即」よりも「没入」よりもむづかしいそこで心がける必要を感じてゐるのである

よく、沒頭とか、專念とか精進とかいふが、われわれの仕事と生活とは、明ても暮ても、それが日常々態で、眠るいとまも囚はれがちになりやすい。むしろ心がけねばならないのは、專心よりは、離心である。魚に河が見えないやうな沒頭に墜りやすい書物から、時折まつたく水を離れて河を見ることのはうが遙に近頃は大事のやうに思はれてきた。もちろん私の場合のみかも知れないが。

×

ことしほどよく旅行した年も少い。それも殆ど講演旅行であつた。この十二月にもなほ台灣へ行くことになつてゐる。果してわたしたちの文藝家銃後講演の一年間にわたるいささかな奉公が、どれほどな貢獻をあげたかわからないが、たゞその業を自分にたゞして見る場合、自分の寸軀も一箇の鍬ぐらゐにはなつて、國土の大業と共に土にまみれ得たといふ歡びを覺えてゐる同時に又、たゞの旅行や文學上の勉强のためには接し得ない地方のいろいろな部門や街の民衆にもじかに觸れてそこから訓へられた點の少くないことに感謝してもゐる。事實われわれがその知性と誠意を以て、時局下の一般地方民に對し何らかの意義に於て與へ得たものがあるとしてもむしろより以上、わたくし達がその地方々々の民衆から學んだことのはうが遙に大きかつたのではないかしらと思つてゐる。これも、人は知らず、自分だけの感謝ではある。

短歌

本社文藝部選

漁村の曙

四倉 劍紫浪

椿咲く江の網里の山腹の木の間木の間ゆ冬の海見ゆ
天に吠え岩を嚙んでは地に泣きつ和まぬまゝに海は暮れ行く
はまざくの芽ぶきかそけき砂濱に明日別れ行く子等は和めり

新春雜詠

平 佐々木顯

秋の雨靜かにふけて五十鈴宮神代ながらのみ神樂おろがむ
沖づ浪邊つ浪なぎてあけちかし船出に勇む老いもわかきも
すめらぎのみ楯となりて雪凍る曠野をすゝむもののふををもふ

連續講談 異說赤穗浪士

別題『異說赤穗義士』『赤穗誠忠錄』

〔92〕

桃川若燕
書 城木喬

附人募集

佐兵之亮は歸邸すると、直に父上野介に此旨を話した、聞いた美央は腰の拔ける程驚いた。

『ウーム不都合な奴らは老中殊に土屋相模守、稻葉美濃守は先頃内匠頭が亂暴したときも乃公の事を惡しざまに申し居つた、怪しからぬ』

プリ／＼してゐると追ひかけて老中からのお達し、大書には高家役筆頭役御免につき屋敷替へ仰せ付けられると、記してあるから上野介が弱つた。

『愈々乃公も、見付内から追ひ出されるが、引越をいたさねばならぬとすると何處ぞ宜い場所を探さねばならぬ』

と、種々諸方を問ひ合したが、相憎と手頃のところがない、左右する内に同じお奧勤めの高家衆の一人で品川式部大輔と屋敷が本所の松坂町にある、品川式部大輔は病死したが家督を繼ぐ者がないため家は取潰しとなつた、無人の屋敷三百石だから至つて手狹だが兎も角行くところがないから玆に引移ることになつたが此の屋敷替へに就いて心配したのは米澤十五萬石の上杉侯上野介は實父だから萬一の事あつては大變と家老の千坂兵部に相談した、千坂が赤穗浪士の行動を見ると、仇討の氣勢は薄々乍ら知れる、浪士共が覘つてゐるとなると只單なる屋敷替と思つて引移つては大變、これは附近の家は買潰して濠のない城廓普請をせねばならぬと心付いたので、その由を申し上げ上杉の力を以て右隣の土屋長門守、左隣の松平賴平千二百石の旗本、これに手を廻して金で話しを付け、立ち退いてもらつて、都合三軒を一度に毀して普請にかゝつたが、これが大變な拵へ、萬事要害を堅固に、或は脫穴、陷穴なども造り、普請が出來上ると、今で云ふ用人棒その頃の付人を集めて上野介の警備隊としたが招きに應じて集まつたのが小林平八郎和久平太夫、須藤一郎右衞門大塚次郎右衞門、清水一角、鳥居理右衞門、其他三十余名此の中で鳥居理右衞門といふ人物は相模國三浦郡内川村漁師の籠綱を拵へる仙右衞門と云ふ者の倅幼名を理吉と云つた。

仙右衞門の妻は理吉を生むと直ぐに死んでしまつたので八幡村の宅藏といふ者の許へ里子にやられた。すると宅藏も理吉を引取ると間もなく急死したので妻のおいのが宅藏との間に出來た子と理吉の二人を育てゝゐると又生んだ子も死んでしまつたので理吉を我子のやうにして世話をしてゐるが稼ぎ手に死なれたので喰ふ事が出來ない、そこで海邊の街道へ葭簀張りの店を出して駄菓子を置いて細々乍ら商ひをしてゐる。

休む者は轣子か漁夫、玆は浦賀と三崎の關のところで丁度三里の中央に當る場所だから菓子は賣れたところで幾らにもならない、おいのは仙右衞門から寄越す里扶持を店賃代りにしてゐる。所が仙右衞門が貧乏だから、一月に一遍づつ送るべきものをやつと二月に一度ぐらゐしか送らない夫れでは自分の店賃が拂へない、困るから時々催促に來る仙右衞門は、

『おいのさん誠に濟まねえ、可愛い子供を世話になつてゐるんだちやん／＼入れてえが俺も此頃身体が本當でなし、どうも仕事も旨く行かねえ、それに此の綱をあんだ籠を編んだり、漁夫に賣つたとしても此奴が借しになるんだからつい／＼不義理をしちまつた濟まねえが、もう少し待つて下せえ』

と詫びる、おいのも仙右衞門が道樂をしたり博ちをうつて寄越さないと云ふなら子供を返す氣にもなるが極く堅い人で貧乏のため心ならずも寄越さないのを知つてゐるから酷い催促も出來ない。

專賣特許二〇五九二三號
營養に富み最も經濟的な「調味料」（二五〇瓦入 定價六八錢）
▼味と營養價値…味は鰹節と變りなくヴイタミン、カルシユーム、沃度を多量に含んだ榮養味、
▼原料…新鮮な鰮の骨肉共に粉末にしたものに海苔類を加へ、完全に脫脂精製したもので風味最も佳良な調味料
▼用途…鰹節や削り節の代用品とし又味の素の代用も可（保存五年保證）
▼經濟的價値…鰹節三圓に對し十五錢の割合煎子一圓三、四十錢に對し十五錢の割合で充分足る
▼主なる納入先…日本赤十字社、陸軍偕行社、陸海軍々需部其の他
特約店
平市古鍛冶町 佐藤陽侔商店
平市鎌田町 菅野勘助商店
賣店土橋 鹽屋商店（電話十番）

〔債券、公債 両替、金融〕
多田井質店
平市大工町 電話五九一番

〔氣分のよい〕
〔皆樣本位の〕
〔喫茶と洋酒〕
紅椿
小名濱町上町
【女店員募集】

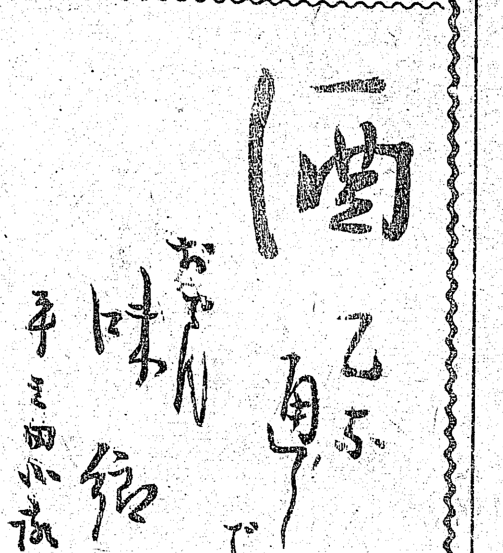
曳前の御知らせ
漁船家屋其他動產の移動
土木建築請負
鐵道船舶仲仕請負
一般
小名濱町榮町（築港地內）
北村芳藏
御希望の方は一應御相談下さい

〔鑑定〕
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町 鵜沼孝昌

食事。喫茶。酒場を兼ねた。
レストラン サロン
平市銀座街 電話五九二番
營業時間
開店…午前十時 御食事は午前十一時より、閉店…午後十一時限り、

ピハマーチ
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
德用罐 五、〇〇
特約店 平市五丁目 山野邊藥局

オラヂの原口・ぬら起 障故
原口無線電機株式會社製品は商工省選定一級品
放送局型 放送局認定 ラヂオ受信機特賣
期間＝自十二月一日 至一月廿日
價格＝公定價格
特典＝
▽受信機五ケ月保證
▽眞空管二ケ月保證
▽ラヂオ聽取料一ケ月負擔
▽アース工事無料奉仕
大日本電力會社 福島電燈會社 會津電力會社 區域內
定額電氣料ハ其ノ月無料從量ハ其ノ月加算セズ、屋內設備工事手數料特免
主催 東北ラヂオ商組合福島縣支部
後援 仙台中央放送局、縣下供電會社
ラヂオとデンキの店 古山電氣商會 平・二（警察署通り）（呼電一一六六）



時局の生んだ新案 特許 日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案（メモ板 第二七七九〇四號 野球ベール 第一七九九七三號 興亞ノート 第二四七九九八號）
專賣特許 興亞厚紙 第（イ）一七三六〇號 第（ロ）一七三六一號
合資會社 興亞特許商事 同工場 月見町三三

三笠燒 色羊羹 味自慢 風味萬點
モナカ屋がお茶受御土產として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます
平驛前中央通 米屋最中店

三菱 コーライト
木炭、石炭、コークスの代用燃料、特長…火力强ク火持チヨク木炭ノ半値、御使用ハ御家庭ノヒンロ、火鉢ニ（一俵「五キロ」から配達致します）
平市田町 阿部石炭商店 電三七・一三七番

肋膜。氣管支。關節。神經痛。肺炎。ロイマチス 扁桃腺。中耳炎。骨膜。腰痛。お疾に
漢方貼藥 濕布で名藥 生公華
藥價 二圓五十錢 四圓 八圓
專賣店 平市五丁目角 山野邊藥局

△入院隨時▽
エツキス光線科
外科、內臟外科
院長 安齊徹
安齊醫院
平市田町 電五四七

外科、內臟外科 肛門病、皮膚科 泌尿生殖器科 專門
（看護婦及見習看護婦募集）
白土醫院
平市鎌田町 電二七九

內臟外科 整形外科
▽入院隨時△
醫學博士 內木宗八
內木外科醫院
平市大町

耳鼻科 咽喉科
▽入院應需△
醫學博士 增田 之
增田醫院
平市紺屋町 電六五一

吉田眼科醫院
平市紺屋町 番話六八番
醫學士 吉田久雄

外科（內臟、整形） 肛門科、性病科 レントゲン科
院長 上田耕作
上田外科
平市南町 電一二九

產科、婦人科
（見習看護婦入用）
井坂醫院
平市田町 電五五九

耳鼻科 咽喉科 專門
（入院隨意、病室完備）
大和田醫院
平市南町六 電話一七〇番

眼科專門 眼鏡檢定
重田眼科醫院
平驛前

內臟外科 整形外科 レントゲン科
松村醫院外科部（平市南町）
醫學博士 松村亨
松村外科

皮膚科 泌尿器科 性病科
江尻醫院
平市田町 電六九一
江尻伊三郎

家庭空群も參加
警防始め式擧行
優良團員、火防組、防空群表彰

平市警防團の警防始め式は今六日午前十一時から市公會堂に於て盛大に擧行、優良團員及家庭防空群を表彰これより先縣社參拜、訓練及模擬演習、消防組時代の名殘りを止める梯子乘りなどあつて警防團結成第二年目の警防始め式は有意義に終つた

この日警防團全員午前七時半本部前に集合整列して國旗掲揚、服裝點檢して縣社へ行進一方家庭防空群正副群長一同は全八時縣社前に集合、警防團と合して子鍬倉神社、秋葉神社に國威宣揚、無火災を祈願して商業學校に向ひ、同九時から校庭と新川畔に於て全員の規律訓練及優良防空群參加の下に模擬火災演習を實施この演習では消水栓から長距離火災に備へて自動車ポンプ速結の放水試驗を行ふなど終始緊張裡に實際に即した演習を行つた、引きつゞき十一時から公會堂に一同參集式典擧行

定刻鈴木副團長開會を宣し拜禮、宮城遙拜、國歌奉唱關内團長御令旨奉讀、團員の永年勤續及功勞者表彰、退職者に記念品贈呈、優良火防組並に家庭防空群表彰警防團後援會長より慰勞金贈呈、渡部警察署長、吉沼市長訓示、來賓の祝辭があつて關内團長挨拶を述べ、受彰者代表の答辭があつて盛大な式を閉ぢた

消防部恒例の梯子乘りは式後街の要所で掛け聲も勇ましく行はれた

精勤者表彰

△庶務、佐々木輝國 石川茂、新妻政太郎 中島英一 渡邊善彌 △警護、吉野廣康 渡邊榮吉 助川登 松崎長治工衞門 馬目文夫 庄司直光 佐藤芳身 △救護、五十嵐雄二 江尻伊三郎 志賀與平 熱田留吉田久雄 安藤徹 增子勇次 △工作、片寄幸平 橋本喜市 遠藤儀平 高久政好 渡邊善知 富永好文 上野重忠 吉田昇 菅野一夫 △防毒、齋藤々造 村上清庭山富造 青木義夫 本田昌平 △交通、染野勇太郎 緑川清一 桑名留好 佐藤新一 遠藤傳六郎 松本武弘 立澤久 佐藤久治 八塩英[illegible] 長谷川義夫 千代謙一郎 小菅勝治 鈴木一男 △配給、金子松男 菅波好之 山田長政 植野今朝雄 △避難、大阿久政治 關野豊松 山崎文治 △第一警、鹿野宇兵衞 井出武司 佐藤善一 白土篤平 菅野芳夫 吉田都徹政 渡邊良平 飯島正太 △燈管、茂木茂 渡邊淸 齊藤勝美 渡邊秋平 佐藤照男 △第二警、坂本政市 土屋正三 五十嵐志郎 石川幸雄 △燈管、山名隆雄 大津賀文吉 深谷新一 草野多喜夫 兒山雄三 遠藤淸右衞門

優良火防組

紺屋町火防組、田町火防組

優良防空群

△二町目第十群、同第十一 △田町第十群、同第十三、同第十六、同第廿三、△八幡小路、第一群、同第十一 △白銀町、第一斑第一群、△南町、第一隣組、同第二隣組、同第三隣組、同第四隣組、△白銀町、第一班一群、同二、同第三班第一郡同二、同三、同四、△三丁目第七群、同第十、△第廿區、第二群、同第四群、△第十區新妻正夫、同鈴木眞澄、△第廿一區高橋龜松、同齊藤角治、第廿九第七鈴三木明、第卅區第八青木繁與、第卅一區第二長瀨三喜郎、第卅二區第二西山助治第卅二區第九松崎孝忠、第卅三區第六鈴木義亮、第卅區指導員鈴木榮輔

四倉警防團の
警防始め式
嚴肅裡に執行さる

四倉町警防團の警防始め式は今六日小學校庭に於て擧行、家刻午前七時鎭守諏訪神社をに金成團長以下全團員出動社前に無火災及び出征軍人の武運長久を祈願令旨奉讀、知事閣下の訓示、金成團長の訓示、來賓代表新妻町長の祝辭等あり同七時四十分式を終了八時から小學校庭で規律訓練を行なつたが成績良好であつた

躍進小名濱の合併案
新春急速に實現か
玉川村一部の反對、理由なし

漁業に、工業に躍進の一途を辿る小名濱町が玉川村合併の懸案を一氣に解決し、輝く聖紀を記念して舊臘中小名濱、玉川兩町村會は滿場一致合併案を決議、直ちに併合に關する所定の手續きに着手したが玉川村側に合併反對の氣勢を擧げるものあり成行きを注目されてゐるが、反對運動を行つてゐる立憲養正會支部長齊藤晃氏一派の反對理由は合併に依る村側の利害は別として方法、行動、動機に不純がある と單なる感情から發した手續き上の反對に過ぎぬ爲、平署でも極端に走るが如き反對運動には斷を以つて取締りに當る方針らしく、時局柄平和裡に進行することを切望されて居り二十七世紀の初頭に於て實現するものと見られてゐる

小名濱町は土地狹溢で將來大發展すべき素質を有しながら工場地帶は元より住宅地にも窮してゐる狀態で土市計劃にも玉川村の合併案が含まれて居り、一方玉川村側も地形的に小名濱町の腹部へ深く喰ひ込んでゐる關係上、近年小名濱港の鰯加工業などで小名濱から直接受ける恩惠は頗る大きく合併條件の如きも殆んど玉川村側の希望を容れてゐる點等から合併に依つて受ける玉川側の利益は甚大なるものがある

合併後の小名濱は
一躍人口二萬
玉川側は工業地帶を構成

合併への發足についた玉川村は人口二千六百、戸數四百二十、面積八、三平方粁、純然たる農村で最近は小名濱港より生鰯を移入、頰刺その他鰯加工業が勃興し賑はつて來た又傳染病隔離病舍は小名濱と共同使用するなど幅の峽い小名濱に喰入つた地勢にあり現在も特別の連繫を保つてゐる一方小名濱の人口は一萬八千、戸數三千で合併案が實現をすると一躍人口二萬六千、戸數三千四百二十の大都市に成る譯で玉川村の平野は工場地帶として大小工業の誘引に努める計畫になつてゐる

市公共團体へ
二五〇圓寄附
三島屋さんの美擧

平市新田町藝妓置屋三島屋事三浦富美男さんは八十八才の高齡で長逝した故祖父與五郎さんの遺志に依り公共團体へ左の如く合計二百五十圓寄附した

△五十圓、平市銃後會△五十圓、平市社會事業助成會△三十圓、平市警防團△二十圓、傷痍軍人會△二十圓田町青年分團△三十圓、新田町常會△二十圓、鄕軍平聯合分會△十圓、同平第一分會△二十圓、磐城訓盲院合計[illegible]圓

蛇蛇蛇蛇

巳年と蛇

巳巳巳巳

（二）

高木稻水稿

2、蛇と傳說

蛇に就いての傳說怪談の類は洋の東西を問はず隨分多い「元朝や神代の事も思はる」といふ俳句があるから、先づ第一に古事記に現はれた蛇の話からペンをすすめる事にしよう。

×

古事記の中で蛇に關する話の最初に出て來るのは八俣遠呂智(ヤマタヲロチ)の話であるが是は國定教科書にも出てゐる有名な話であるから省略する事にして、大國主命樣のへびの室屋(ヘビノムロヤ)の話から書き出さう。

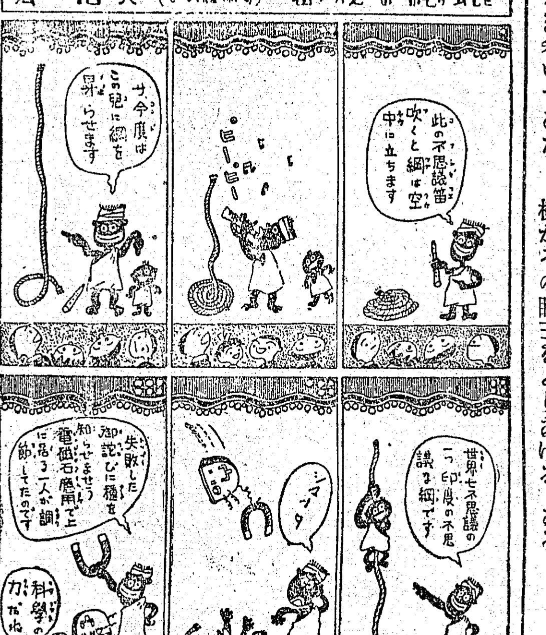
大國主命樣が兄弟の八十神(ヤソガミ)達と八上毘賣(ヤガミヒメ)といふお方の愛を爭ひ、とうとう姫は大國主命樣のものとなる。すると八十神達は戀の勝利者の命をいろいろと壓迫して苦しめられる堪へかねた命は須佐能男命(スサノヲ)の支配なさる根の堅洲國(ネノカタスクニ)に逃げてゆかれる。すると今度はそこで須佐能男命の娘の須勢理毘賣(スセリヒメ)といふお方に慕はれて、とうとう御夫婦の契を結ぶ事になる。お父さんの須佐能男命樣はどうかして大國主命樣を鍛練してすぐれた勇武のお方としようとして、へびの室屋といふてへびの澤山居る室に寢せさせられる。姫はへびの比禮(ヒレといふのは昔の婦人の頷につけたもので、魚のヒレと同じく打振ることにも用ひられたものである、へびのヒレはへびをさける呪の比禮の意である)を授けられる。命は姫から與へられたへびの比禮のお蔭でへびの室に寢てもへびの害を受けずに安眠出來た。それから後も次々にいろいろの試練を受けて、大國主命樣は八十神達を御征服になる。是がへびの室屋の話である。

次は豐玉毘賣のお話で、豐玉姫は海神の娘で海岸に來られて鵜茸草不合命(ウガヤフキアヘズ)を生み奉る時、龍の姿となつたと書いてある。もつとも古事記には八尋和邇(ヤヒロワニ)となつて居り、日本書紀には龍となつてゐる。どちらが妥當かといふことになると龍の方が妥當のやうである。筑紫の國の傳說にこれと似た話がある。

肥前の溫泉嶽の麓に一人の狩人が住んでゐた。若い美しいお嫁さんを貰つて樂しく暮らして居る中に、そのお嫁さんが子供を生む事になる。お嫁さんは決して產屋をのぞいてくれるなといふ。のぞくなといふとのぞきたいのが人情で、そつとのぞいてゐると、その嫁さんは恐ろしい大ぢやの姿となつてとぐろを卷いてゐた 子供を生むともとの女の姿になつて子供を抱へて出て來た。そして姿を見られたからといつてお山の沼に歸つて行つてしまつた。その時左の眼玉をぬいて「赤んぼ坊がなく時は嘗めさせてくれ」といつておいて行く。それが評判になつたので殿樣がその眼玉をとりあげる。するとこんどは右の眼玉をおいて行つた。するとそれも殿樣がとりあげる●盲目となつた大ぢやは大いに怒つて一夜その村に火山灰を降らして全滅させてしまつた。

豐玉姫の話も九州での事であり、實に好く似てゐる話である。

蛇繩の祕密（手術種明し） 大沼弘


此の不思議笛吹くと繩は空中に立ちます
さア今度はこの蛇に繩を昇らせます
世界七不思議の一つ印度の不思議な繩です
シマッタ
失敗した
電磁石應用で上に居る一人が調節してたのです
科學の力だね

松野尾辯護士が
實業界へ轉出
十一日朝九時十分發で赴任

平市の法曹界に重きを爲してゐた少壯辯護士松野尾繁雄氏はゴムの國策的統制の必要から新しく生れた日本東部ゴム組合に招かれて專務理事に就任、大轉向して實業界に入り五日單身赴任したが八日夜歸平の上家族同伴十一日午前九時十分平驛發列車で市川市の新居へ移ることに成つた

同氏は東大出身の法學士で新聞記者から法曹界に三段跳して同輩を驚かしたが今度は更に百八十度の轉向振りで地方の文藝界に重きを爲し平山岳會を指導するなど同氏の轉出は地方的に惜しまれてゐる

尙同氏は殘務整理の關係上當分辯護士の登錄を存續する模樣である

平市の初常會
生活改善審議

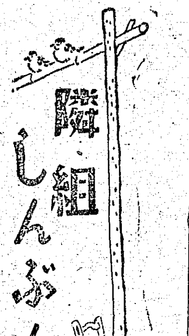
平市常會の初委員會は明七日午前七時から市會議事堂に開き下部組織を指導する生活改善に關する各般に亙つて協議するが常會規程も一部改正委員の任期も一ヶ年と定め職能代表委員は其の職業の任期に依ることに成つた、尙各區内常會は十七日開く豫定である

集配人不足の小名局で
正服の學生動員
停頓勝ちな郵便物を處理

集配人不足で弱り切つた小名濱郵便局では冬季休暇に入つた實業學校生徒を動員、毎日三名の學生が赤自動車で小荷物配達に忙しく豫期以上の好成績を示し休暇一ぱいの八日迄繼續することに成つた、この好成績に鑑み來る三月の三學期休暇にも同樣學校側と連絡を取り停頓勝ちな郵便物の處理に同樣〃制服の集配人〃を動員する計畫である

年賀郵便激減
平局で二千三百通

平郵便局年賀郵便取扱數は新體制が反影してか軍事一般共僅か二千三百通に激減、當局を驚してゐる、尙は貯金電信等は平年通りで大差はない模樣である



少年隣り組
胡摩澤にも誕生
一錢貯金で養兎計劃

平市胡摩澤第三隣組では安田英子(高等一年)さんを組長とする學生隣組を編成、昨日の日曜日に初常會を開き毎日曜一錢貯金勵行を申合せその金で兎の飼育をすることに成つた、先づ怠らぬ樣に草刈係、飼育係を次の組員のうちから當番を決めるが大人の隣組長茂木茂さんも大乘氣で兎一番を贈つたので子供等も大張切りである少年隣り組のメンバー左の如し

猪狩マキ子(高二)竹内ヨシ子(尋六)猪狩弘(尋五)茂木利男(尋四)安田正雄(尋二)茂木忠男(尋一)

仲田町隣組
組長常會役員選任

平市田町仲田町常會は五日午後一時から安齊病院に開き十五年度決算十六年度より町内會費と防空費とを合同徵收の件其他を附議した後平市常會下部組織たる隣組の組長及び班長常任委員を左の如く選定した

班長須藤鶴之助 組長江尻伊三郎 大竹庫 齊藤賢三

四倉警察署
暮れの捕物
泥を吐く强窃盜犯

四倉警察署の歲末警戒に引つかゝり同驛から高飛びせんとする處を追跡格闘の末取押へた怪漢を同署で追求取調の結果本籍西白河郡矢吹町生れ目下住所不定無職强窃盜前科五犯篠塚信吉(三九)と判明、篠塚は昨年九月三ヶ年間の刑期を終へ秋田刑務所を出所以來宮城、福島の二縣を股に掛けて家具自轉車等を專門に窃盜を働いてゐた强か者で十二月九日午後四時半頃四倉本町菅波齒科醫院前の中古自轉車一台を窃取逃走、同夜十一時半頃同町仲田鈴木簞笥店に忍び入り鏡台外家具類數點價格二百餘圓を窃取して高飛びせんとした處を取押へられたもので兩縣下の窃取被害は相當の數に上るらしく、泥を吐いたものだけでも數十件に上り餘罪引續き取調中

新春の火事
神谷で一棟燒く

六日午前三時二十六分頃神谷村大字鎌田字小山下松崎幸太郎(三六)さん方から發火、住家一棟を全燒した、損害四百圓原因火の不始末らしい

小名濱局の
年賀郵便
軍事は增加一般は激減

小名濱郵便局今年度年賀郵便取扱數は

△車事郵便七百枚△一般年賀四千二百枚

で軍事年賀は相當增加したが一般年賀郵便は特別取扱ひ廢止の關係もあつてグツと激減した

長瀨重役死去

磐城セメント工業所取締役工務部長長瀨菊次郎氏は永らく病床にあつたが舊臘三十一日死去した、享年五十九才葬儀は明七日午後一時より二時まで社葬に依つて靑山齋場に於て告別式を執行する

平市慶弔錄

【婚姻】△平市大字中平字市横枕根本紋三弟三郎(二八)と石城郡下小川村大字下小川草野秀勝長女キイ子さん(一七)△平市紺屋町三番地大塚伊三郎三男三郎(二九)と岩瀨郡須賀川町字西五丁目影山喜助從妹チヨミ(二五)

【出生】平市字紺屋町三番地大塚三郎長女惠子さん△平市材木町三番地菅野芳夫次女芳子さん△平市立町九十六番地金成正一次男昭治さん△平市白銀町三五番地靑木義雄長女眞知子さん△平市揺槌小路三十三番地田島一長男進一さん△平市三丁目小島一夫次男紀夫さん▲平市胡摩澤百番地鈴木三郎長男理介さん△平市仲間町六十六番地坂本一郎三男正夫さん△平市南町五八番地岡勇三女千惠さん

【死亡】平市字八幡小路七十九番地鈴木作治(四九)

天氣豫報

今晩 北の風晴

明日 北の風一時晴後曇り

新 一月七日
火曜 乙卯 先負 滿 尾宿
舊 十二月十日

▲一白 諸事氣忙しき折柄なれど焦れば却て蹉跌す
▲二黑 多少の無理も通らんとする隆盛の日柄なり
▲三碧 大利を貪り求めんとするは却て失ふ所あり
▲四綠 自力の雄大さを發揮すべき日精勵するが吉
▲五黃 自己の鐵腕に依りて財貨を捻り出すべき日
▲六白 弱敵と侮りて意外の敗れを生ずるが如き日
▲七赤 抗すればこうするほど逆運に見舞はるべき日
▲八白 確信と實力とを以て突貫し勝利を博すべし
▲九紫 小事に拘はりて大事を失はんとするが如し

御禮御挨拶

今日平警防團の年賀御訓練に際し當社製造の太陽無機コロイド塗料の實驗を辱うし洵に有難く厚く御禮申上候

本日の實驗は兩側の家居を同時に燃燒させたる上に偶然に末だ嘗實行せし事なき中心塗裝家屋內の燃燒物にも引火致して大火勢を起し一圓全く火の海と化したるにも拘ず六分間引火せず嚴然と耐火の目的を達し八分間位にして中心塗裝家居の兩壁のみ燒失致したるも裏側及屋根は最後迄其のまゝ殘存するの結果と相成り申候

尙燒夷彈に對しては床の一部が圓く燒け拔けたるのみにて完全無欠に塗裝の目的を達したるは御高覽の通りに御座候

本實驗に關し平警察署長殿外各位、平警防團各位、市役所警防課各位の御盡力に對し感謝の外無之く一々拜趨御挨拶申上可き處甚だ勝手乍紙上御禮申上候

一月六日

京橋區室町三ノ七
太陽無機コロイド工業所
後藤久叔
販賣店
山田文一商店

家毎に神樣を祈りませう

檜製神明三社造 二、三〇ヨリ
樅製箱形造 二、八〇ヨリ
檜製大神宮造 五五ヨリ

三神寶鏡、升、入二福神各種其他御宮神器を陳列致しました

さかいや商店
平市六丁目通り
本店千葉市電二、六〇七

お醬油は

味噌、醬油
たひら正宗
鰹節、食料品

鹽屋
山崎合名會社
福島縣平市
電話本店二七番 營業部一〇番
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

安田系統の帝國海上

帝國海上火災保險株式會社
平代理店 關內正一
事務取扱者 阿部助次郎
平市三丁目 電話一六番